

沖縄県立博物館所蔵紅型型紙の分類とその考察（二）

與那嶺 一子

(沖縄県立博物館)

Categorization of the *Bingata* Owned by the Okinawa Prefectural Museum (II)

Ichiko YONAMINE

(Okinawa Prefectural Museum)

はじめに

紅型という染め物には、未解決の多くの疑問箇所があることは衆知のことであり、その詳細については、すでに報告済みである。^(注1) それらの疑問解決の糸口を見つけるために、当館所蔵の型紙の整理を行った結果の一部は、すでに先の報告書にて掲載し、紅型で扱われている文様そのものが、友禅染とかなりの類似性を見せていることを指摘した。しかし、表現されている文様が、どこまで和様なのか、全く沖縄的な特徴は見られないのか、中国の吉祥文様も直接中国からという説と日本本土経由説があるがどうなのかといった点については触れることができなかった。それで、今回は文様を植物文、動物文、道具文、自然現象文、幾何学文の五つに分類し、型紙の大きさや彫りによる違いでは、どのように異なるのか、型紙で扱われる頻度を調べた結果をもとに、特に植物文に焦点を絞って補足することにした。

型紙の大きさと種類による文様の特徴について

紅型型紙は、まず大きさと白地型・半白地型・染地型といった彫りの違いによって分けられる。^(注2) ここでは、彫りの違いを「種類」という言葉でまとめておく。当館所蔵の型紙を、大きさと種類で整理した結果が表Ⅰである。表Ⅱ、表Ⅲは型紙に扱われる植物文、動物文、道具文、自然現象文、幾何学文といった文様が、型紙の大きさと、彫りによる違い、(種類)でどのように異なるのか、型紙で扱われた数を表示したものである。表Ⅰは一見しても

分かるように、数にかなりばらつきがある。

そのために、表Ⅱ、Ⅲの()内には、大きさや種類別の型紙数で割った%を表示した。

型紙の大きさ別で見ると、植物文、動物文、道具文、自然現象文は型紙が大きくなるにつれて、型紙に扱われる文様の数も多くなることが分かる。例えば、道具文の場合、細模様型ではわずかに6%にすぎないのが、大模様型では29%と、10枚の型紙の内約3枚に道具文が見られるという結果となっている。幾何学文は、中模様型・中手模様型以外では45~51%の割合で見られ、型紙の約半数には必ず幾何学文が使われていることとなる。

型紙の種類別に見ると、幾何学文以外の文様は、白地型と半白地型で扱われる割合が同じで染地型ではその割合が少ないことが分かる。幾何学文は、圧倒的に半白地型で扱われる割合が多い。半白地型の型紙全てに幾何学文が見られることになる。それは、伊勢小紋型に類似の型が、多いことも要因であろう。

表Ⅱ、Ⅲから分かるように、最もよく扱われている文様は、植物文である。()内の%を見ると、全型紙に植物文が使われているという結果である。また一枚の型紙に表現される植物文が、平均1.5種類以上であるということも数字から明かである。また、この割

	細模様型	中模様型	中手模様型	三分二中手模様型	大模様型	計
白地型	100	22	76	13	58	269
半白地型	8	6	0	1	11	26
染地型	129	44	74	5	24	276
計	237	72	150	19	93	571

表Ⅰ) 沖縄県立博物館所蔵の型紙(型の大きさと種類別)

	細模様型	中模様型	中手模様型	三分二中手模様型	大模様型	計
植物文	282(119)	93(129)	274(183)	47(247)	221(238)	917(161)
動物文	54(23)	34(47)	91(61)	12(63)	56(60)	247(43)
道具文	15(6)	15(21)	27(18)	5(26)	27(29)	89(16)
自然文	35(15)	30(42)	81(54)	17(89)	77(83)	240(42)
幾何学文	107(45)	14(19)	32(21)	9(47)	25(51)	187(33)

表Ⅱ) 型紙の大きさ別文様の出現回数 * ()内は型紙の数で割った%

	白地型	半白地型	染地型	計
植物文	549(204)	60(231)	308(112)	917(161)
動物文	140(52)	10(38)	97(35)	247(43)
道具文	51(19)	5(19)	33(12)	89(16)
自然文	135(52)	20(77)	85(31)	240(42)
幾何学文	56(21)	33(127)	99(36)	188(33)

表Ⅲ) 型紙の種類別文様の出現回数 * ()内は型紙の数で割った%

	細模様型	中模様型	中 模 様 型	三分二中 手 模 様 型	大模様型
梅	69(29)	20(28)	73(49)	9(56)	36(39)
松	34(14)	14(20)	49(33)	2(13)	31(33)
竹	28(12)	9(13)	32(21)	2(13)	25(27)
松竹梅	18(8)	3(4)	23(15)	1(5)	14(15)
桜	28(12)	17(24)	38(25)	3(16)	32(34)
菊	11(5)	8(11)	34(23)	14(74)	45(48)
楓	39(17)	15(21)	24(16)	2(11)	17(19)
牡丹	5(2)	1(1)	11(7)	4(21)	20(22)
桔梗	11(5)	2(3)	7(5)	—	5(5)
唐草	14(6)	2(3)	5(3)	2(13)	—
菖蒲	4(2)	1(1)	5(3)	2(13)	4(5)
橘	13(6)	—	—	—	3(3)
葵	4(2)	—	6(4)	—	5(5)
葦	—	—	3(2)	2(13)	8(7)
草花	10(4)	—	3(2)	—	—
藤	2(0.8)	5(7)	—	—	5(5)
撫子	5(2)	1(1)	4(3)	2(13)	4(4)
花	10(4)	1(1)	—	—	—
鉄線花	6(3)	1(1)	2(1)	—	1(1)
芒	3(1)	—	5(3)	1(5)	1(1)
銀杏	5(2)	—	3(2)	—	—
桐	2(0.8)	—	3(2)	1(5)	—
椿	—	—	1(0.7)	1(5)	—
大函	3(1)	—	2(1)	—	—
麻の葉	—	3(4)	1(0.7)	—	1(1)
水仙	1(0.4)	—	—	1(5)	2(2)
薺	3(1)	—	1(0.7)	—	—
木の実	4(1)	—	—	—	—
柳	2(0.8)	1(1)	—	—	—
蔓	3(1)	—	—	—	—
薔薇	—	—	—	1(5)	1(1)
桃	—	—	—	—	2(2)
朝顔	—	—	—	—	1(1)
三つ葉	—	—	1(0.7)	—	—
芭蕉	—	1(1)	—	—	—
栗	1(0.4)	—	—	—	—
葡萄	1(0.4)	—	—	—	—

表IV) 型紙の大きさ別植物文の出現回数

	白地型	半白地型	染地型	計
梅	112(42)	15(58)	80(29)	207(36)
松	60(22)	10(39)	60(22)	130(23)
竹	42(17)	8(31)	46(17)	96(17)
松竹梅	24(9)	7(27)	28(10)	59(10)
桜	58(22)	7(27)	52(19)	118(21)
菊	73(27)	13(50)	26(9)	112(20)
楓	58(22)	2(8)	37(13)	97(17)
牡丹	29(11)	5(19)	7(3)	41(7)
桔梗	20(7)	2(8)	3(1)	25(4)
唐草	15(6)	3(12)	6(2)	24(4)
菖蒲	10(4)	1(4)	5(2)	16(3)
橘	13(5)	1(4)	2(0.7)	16(3)
葵	11(4)	—	4(1)	15(3)
葦	12(5)	—	1(0.4)	13(2)
草花	7(3)	—	6(2)	13(2)
藤	10(4)	—	2(0.7)	12(2)
撫子	12(5)	—	—	12(2)
花	2(0.7)	1(4)	8(3)	11(2)
鉄線花	6(2)	—	4(1)	10(2)
芒	8(3)	—	1(0.4)	9(2)
銀杏	6(2)	1(4)	1(0.4)	8(1)
桐	5(2)	—	2(0.7)	7(1)
椿	6(2)	—	—	6(1)
大函	4(1)	—	1(0.4)	5(0.9)
麻の葉	3(1)	1(4)	1(0.4)	5(0.9)
水仙	3(1)	—	1(0.4)	4(0.7)
薺	—	1(4)	3(1)	4(0.7)
木の実	3(1)	—	1(0.4)	4(0.7)
柳	2(0.7)	1(4)	—	3(0.5)
蔓	2(0.7)	—	1(0.4)	3(0.5)
薔薇	2(0.7)	—	—	2(0.4)
桃	1(0.4)	—	1(0.4)	2(0.4)
朝顔	1(0.4)	—	—	1(0.2)
三つ葉	1(0.4)	—	—	1(0.2)
芭蕉	1(0.4)	—	—	1(0.2)
栗	—	1(4)	—	1(0.2)
葡萄	—	1(4)	—	1(0.2)

表V) 型紙の種類別植物文の出現回数

合は、型紙が細模様型から大模様型にと大きくなるにつれて多くなっていく。それは、型紙が大きくなるにつれて複数の文様構成が可能になるためだと考えられるが、しかし、細模様型でも、松、竹、梅といった文様を散らす形（写真1）で複数構成されたものも多く見られ、大きさでは簡単に片づけられない面がある。

型紙の大きさと種類による植物文の特徴について

最も多く出現する植物文の中で何が一番多く使われているのか、細かく調べた結果が表IV、Vである。当館所蔵の型紙の中で扱われている植物は、36種類に及んでいる。

題材として扱われる回数の最も多い順に見てみると、梅、松、桜、菊、楓、竹、牡丹、桔梗、唐草、菖蒲・橘となる。その他の文様は、扱われる頻度が571枚中12枚～1枚と少なくなる。

松竹梅の吉祥文様がよく扱われていることは、それぞれの文様の数字からも分かるが、参考に松竹梅の組み合わせがどれくらい見られるかも表示した。松竹梅の中でも梅が最も多く、松がそれに次ぎ、竹が一番少ない。また、梅などは、他の文様との組み合わせでもよく扱われているが、竹の場合は少ない。

型の種類別にみてみると、表VIのような結果となる。また、型紙の大きさによる違いは、表VIIに表示してある。

型の大きさ別に見てみると、型紙の種類同様に松、竹、梅、桜、菊、楓といった文様が多いことには変わりはないが、型紙が大きくなるにつれて菊文様が多くなり、楓文様が少なくなるという傾向が見られる。楓文様は、細模様型では、散らし文として使われている例が多い。菊文様が細模様型で少ないので、花びらが多いために、小さい画面では表現しない。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
白地型	梅	菊	松	桜	楓	竹	牡丹	桔梗	唐草	橘
半白地型	梅	菊	松	竹	桜	牡丹	唐草	楓・桔梗	—	—
染地型	梅	松	桜	竹	楓	菊	牡丹	唐草、草花	—	花

表VI) 植物文の使用順位 (型紙の種類別／10位まで)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
細模様型	梅	楓	松	桜・竹	唐草	橘	菊・桔梗	—	—	花・草花
中模様型	梅	桜	楓	松・竹	菊	藤	麻の葉	—	—	—
中手模様型	梅	松	桜	菊・竹	楓	牡丹	桔梗	葵	菖蒲・唐草・芒	—
三分二中手模様型	菊	梅	牡丹・桜							
大模様型	菊	梅	桜	松	竹	牡丹	楓	葦	桔梗・藤・葵	

表VII) 植物文の使用順位 (型紙の大きさ別／10位まで)

にくいのではないかということも考えられる。

また、表Ⅵから出現頻度の高い植物文は大きさに関係なく見られるが、出現頻度の低い植物文は、細模様型に多く見られるなど、型紙の大きさに関係があることが分かる。例えば、柳、芒、銀杏、木の実、草花などの文様は細模様型では何例か見られるのに対して大模様型では全く見られない。

では、これらの36種類の文様がどのようなパターンで使われているかは、表Ⅷと図1で示したとおりとなる。

植物文様の表現パターンについて

表Ⅷの文様構成で「散らし文（複）」と表示しているものは、異種類の複数の文様が散らして構成されているもののことである。（写真1）また、「散らし文（単）」とは、菊なら菊だけの文様が単独で散らして構成されているもの（写真2）と考えている。「繋ぎ文（複）」とは、異種類の複数の文様がつながって構成されているもの（写真3）、また、「繋ぎ文（単）」とは、菊なら菊だけの文様が単独でつながって構成されているもの（写真4）と考えている。

もちろん、紅型文様の構成はこの4例だけではない。大模様型などに見られるような絵画的な構成もある。ここでは、参考のために散らし文と繋ぎ文を取りあげてみた。

また、表Ⅷの文様パターンでも例として表記していないものは、特に変化のある表現パターンは見られなかったという意味である。



写真1) 散らし文(複)



写真2) 散らし文(単)



写真3) 繋ぎ文(複)

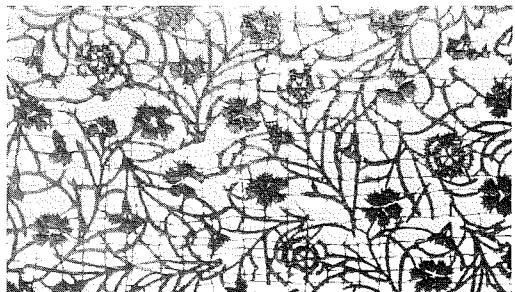


写真4) 繋ぎ文(単)

松	重ね松/松葉/松の実/若松/松樹/散らし松	散らし文(複)	繋ぎ文(複)(単)
竹	笹の葉/雪持ち笹/笹の丸/竹林/竹井桁/散らし笹	散らし文(複)	繋ぎ文(単)
梅	散らし梅/梅+枝/梅+樹/梅の丸	散らし文(複)	
桜	散らし桜/枝桜/枝垂桜/桜の丸/桜+葉/桜+流水	散らし文(複)(単)	繋ぎ文(複)
菊	散らし菊/菊の丸/菊+葉/光琳菊/菊+流水/菊+唐草	散らし文(複)(単)	
楓	散らし楓/枝楓/楓+流水	散らし文(複)(単)	
牡丹	散らし牡丹/牡丹の丸/牡丹+葉/牡丹+鳳凰/牡丹+扇/牡丹+蝶	散らし文(複)	繋ぎ文(単)
桔梗	散らし桔梗/桔梗+葉	散らし文(複)	繋ぎ文(単)
唐草	唐草+その他の花(桜・菊など)	繋ぎ文(複)	
菖蒲	散らし菖蒲/菖蒲の丸/菖蒲+流水	散らし文(複)	
橘	散らし橘/橘の丸/橘+流水	散らし文(複)	
葵	葵+流水	繋ぎ文(複)	
葦			
草花		散らし文(単)	繋ぎ文(単)
藤	散らし藤/下がり藤/藤の丸	散らし文(複)	
撫子	散らし撫子/撫子の丸	散らし文(複)	繋ぎ文(単)
花	花+葉	散らし文(複)	
鉄線花	散らし鉄線花/鉄線花の丸	散らし文(複)	繋ぎ文(単)
芒		散らし文(複)	繋ぎ文(複)(単)
銀杏	散らし銀杏	散らし文(複)	繋ぎ文(複)
桐	雪持ち桐	散らし文(複)	
椿	椿の丸/椿+葉	散らし文(複)	
大函	散らし大函	散らし文(複)	
麻の葉	散らし麻の葉	散らし文(複)	
水仙	水仙の丸		
菖		散らし文(複)	繋ぎ文(複)(単)
木の実		繋ぎ文(複)(単)	
柳	枝垂柳	繋ぎ文(複)	
蔓			
薔薇	薔薇の丸		
桃	散らし桃	散らし文(複)	
朝顔	朝顔+葉		
三つ葉	散らし三つ葉/三つ葉+枝	散らし文(複)	
芭蕉	芭蕉の丸	散らし文(複)	
栗	散らし栗	散らし文(複)	
葡萄	散らし葡萄	散らし文(複)	

表VIII 植物文様の表現パターン *注2

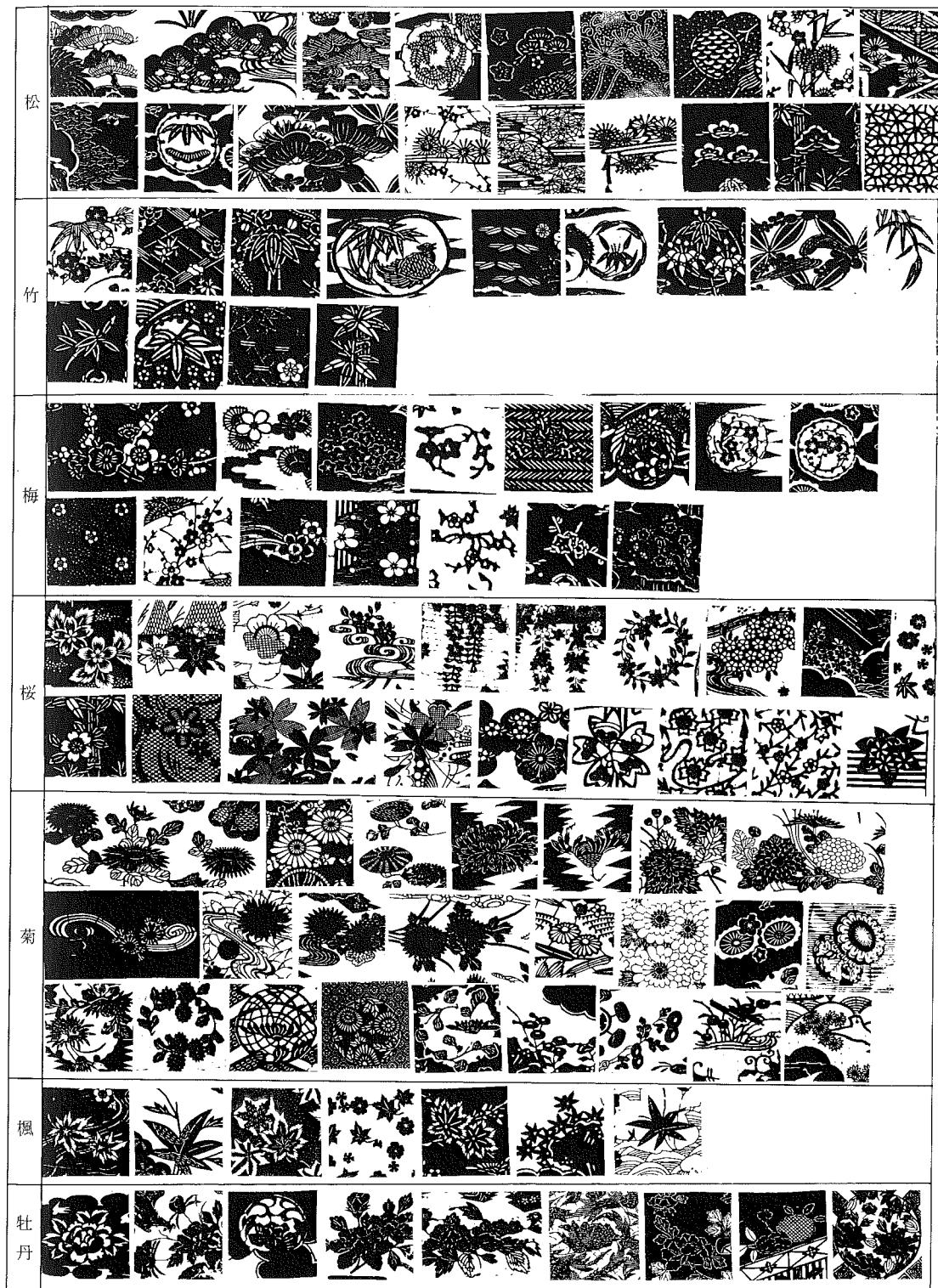


図 1) 型紙における植物文の表現パターン

桔梗				
菖蒲				
銀杏				
唐草				
橘				
葵				
葦				
草花				
藤				
撫子				
花				
鐵線花				
芒				

桐		
椿		
大函		
麻の葉		
水仙		
木の実		
柳		
薔薇		
桃		
朝顔		
三つ葉		
芭蕉		
栗		

図1をみると、表VI、VIIでよく扱われている文様が、パターンも多いことが分かる。桜、菊、楓、菖蒲、橘、葵は流水と組み合せた表現も多く見られる。松、笹、梅、桜、菊、牡丹、菖蒲、橘、藤、撫子、鉄線花、椿、水仙、薔薇などは丸文構成のものがよく使われている。また、梅、桜、楓、銀杏、草花、花などは、散らし文によく見られる。他の文様にも例はあるが、牡丹は鳳凰や蝶との組み合せが多い。

おわりに

整理の都合上、動物文、道具文、自然現象文、幾何学文などに触れる事ができず、別の機会にそれらをさらに補足するとして、植物文だけを見てみると、描かれている文様は、確かに和様であり、やはり、大和様式への憧れが感じられる。しかし、雪持ちの桐があつたり、藤か桐か判断できないものなどあり、それらの文様は、沖縄で独自に変化していくものではなかろうか。歴史的に近隣諸国の文化を取り入れながら沖縄独自の文化を形成していく過程を考えると、紅型の場合も和様の文様を模倣したり、写したりしつつ、沖縄的に消化する途中段階だったのではないかと思われる。

紅型で扱われている文様が、友禅に類似していることはどの研究者も否定していない。そのようなことから、前回の報告では「紅型が友禅に代わる物だったのではないか」と「友禅」という範囲の狭い言葉を使ったが、ここでは友禅という限定はあえて避け、縫緞、絞なども含めた日本の染織物に代わるものだったのではないかと考え直したい。また、あらためて、日本の染織物に現れる文様とも比較してみたい。

当館所蔵品が現存する紅型型紙のすべてではないのでこの結果イコール紅型の文様とは断定できない部分もあるが、結果は今後、友禅染を含めた和様の文様や中国印花布、更紗などと比較する場合の基礎資料としたい。

注1) 「沖縄県立博物館所蔵紅型型紙の分類とその考察」『MUSEUM No. 489』東京国立博物館 1991

注2) 作図にあたっては翁長自修『沖縄の文様—紅型文様の特質』第208回博物館文化講座レジュメを参考にした